

若者は仕事について知る機会が必要

ご両親及び介護者への情報

学生には、仕事、有給の雇用、職場で評価されるスキルについて雇用主から学ぶ機会が必要です。これは、大学への直接入学を希望している、学校を卒業した後にさらにトレーニングを受けることを希望している、あるいはそのまま社会人になることを希望しているなど、すべての学生に当てはまります。

仕事の世界と関わることで、若者は学校で学んでいることの関連性を理解し、視野を広げ、向上心を高め、自分に開かれている仕事やキャリアの道の幅を明らかにすることができます。

若者には以下の様な機会が求められます。

- 自分が信頼に値すると他人に証明する
- 働けることを示す
- 自信をつける
- スキルを伸ばす

若者は以下のような方法で、仕事の世界を経験できます。

- パートタイムとアルバイト
- 学校プログラムにおける職場学習と職場体験
- 職場観察（ワークシャドウイング）
- ボランティア活動
- 職場訪問
- 就労体験とインターンシップ
- スポーツクラブ
- 起業や「スタートアップ」

このような経験は、雇用を確保・維持し、職場で進歩するために必要な知識やスキルの構築に役立ちます。

仕事力の構築

仕事の能力とは、職場で最も評価され、認められ、感謝される行動や態度のことです。近年、雇用主は、従業員は能力があり、それを証明できる力が必要だと考える傾向があります。

国家技能委員会（National Skills Commission）が特定した雇用適性に不可欠なスキルは、以下の通りです。

- 対人関係、人間関係のスキル
- 組織力・企画力 信頼性・モチベーション
- クリティカルシンキングと問題解決
- コミュニケーション、チームワークのスキル
- 適応力と回復力（レジリエンス）
- デジタル・リテラシー